

会 議 要 旨

会議の名称	令和元年度第1回 川越市地域自立支援協議会 全体会	
開催日時	令和元年 6月7日(金) 15時30分 開会 ・ 16時40分 閉会	
開催場所	川越市保健所 2階 大会議室	
出席者(委員)氏名 (人数)	齋藤 敏靖 委員 菊本 圭一 委員 阿部 浩一 委員 檜村 千寛 委員 中村 義孝 委員 溝井 啓子 委員 吉澤 眞佐子 委員 塚田 徹 委員 斎藤 秀一 委員	金澤 昌敏 委員 水野 努 委員 遠藤 政子 委員 金本 徳夫 委員 水見 哲也 委員 柳沢 真理子 委員 四方田 勇介 委員 渡邊 千恵 委員 (計17人)
欠席者(委員)氏名 (人数)	大森 三起子 委員 齋藤 久美子 委員	西川 祐一 委員 (計3人)
出席者(関係者)氏名 (人数)	川越市障害者相談支援センター 川越市障害者相談支援センター 川越市障害者相談支援センター 川越市障害者相談支援センター	炭谷 さつ子 元木 晶子 山内 智史 山田 英紀 吉田 慶子 (計5人)
事務局職員 職 氏 名	障害者基幹相談支援センター 所 長 主 査	服部 芳昭 高橋 賢悟
会議次第	1 開会 2 委員及び関係者紹介 3 川越市地域自立支援協議会について 4 議題 (1) 座長の選出について (2) 部会の構成及び部会長の選出について (3) 各部会の活動方針について (4) その他 5 報告事項 (1) 平成30年度川越市障害者相談支援センター活動状況報告 (2) 平成30年度川越市障害者虐待防止センター活動状況報告 6 閉会	

配布資料	<ul style="list-style-type: none">・会議次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別紙 1・資料 1 「川越市地域自立支援協議会委員名簿」・・・・別紙 2・資料 2 「川越市地域自立支援協議会設置要綱」・・・・別紙 3・資料 3 「川越市地域自立支援協議会専門部会別名簿」・別紙 4・資料 4 「令和元年・2 年度川越市地域自立支援協議会 各部会活動方針」・・・・・・・・・・・・・・・・別紙 5・資料 5 「平成 3 0 年度川越市障害者相談支援センター ケース対応」・・・・・・・・・・・・・・・・別紙 6・資料 6 「川越市障害者虐待防止センター実績報告」・・・・別紙 7
------	---

議 事 の 経 過

1 開会

2 委員及び関係者紹介

委員の改選に伴い、全委員及び関係者が自己紹介を行う。

3 川越市地域自立支援協議会について

事務局より資料2に基づき概要を説明する。

4 議題

(1) 座長の選出について

前座長の齋藤敏靖委員を仮議長として進行する。

座長の選出方法については、委員からの「指名推薦を希望する」との意見があり、異議もないため指名推薦となる。

委員より齋藤敏靖委員への指名推薦があり、他委員への指名なく、異議もないため、齋藤敏靖委員が座長として決定し、以降を議長として進行する。

(2) 部会の構成及び部会長の選出について

議長より、資料3の部会構成(案)について委員に諮られ、異議なしのため(案)のとおり決定となる。また、各部会長については議長より「仕事活動部会：金澤昌敏委員」「まちづくり部会：菊本圭一委員」「こども部会：水野努委員」「地域移行部会：齋藤秀一委員」への指名推薦がなされ、異議なしとして決定となる。

(3) 各部会の活動方針について

各部会長より資料4に基づき説明を行う。

【仕事活動部会】

障害者の就労支援に関わる各関係者と継続して協議を進め、就労に係る様々な課題を引き続き検討していく。

余暇活動等についてはお試しかフェの恒常的な実施方法の検討や集いの場の充実に向けて検討を継続していく。

重度の障害者の通所先については障害者福祉課による説明会等を実施しているところであるが、当部会でも生活介護の枠の中で「働く」ということを意識した課題等の共有を図っていきたい。

【まちづくり部会】

基幹相談支援センターを中心とした相談支援体制の整備と併せ、地域生活支援拠点の課題等についても引き続き検討していきたい。

児童のセルフプランの解消についても課題は継続しているため引き続き検討していく。

5月27日に川越市障害者相談支援センターの委託相談員と意見交換の場を設けた。その中で来年度の西口移転構想に伴い、共生社会としての総合相談窓口機能の先行きが見えないことでの不安感を抱いている現状が確認できた。

川越市の相談体制は他地域と比べてもそんな色ない体制が出来ているが、さらなるステップアップが必要な時期に達しているのではないかと感じている。各相談員が目指すべき先として同じ方向が見えているかという部分についても、溝があるようであれば協議の中で埋めていけたら良いのではないかと考えている。

(意見)

川越市は多くの相談窓口があり、センターと名のつく機関も増えている。その中で各機関の役割の明確化や総合相談窓口の必要性は感じられるためまちづくり部会にて協議を進行してほしい。

児童もセルフプランについては、児童のプロジェクトを活用して川越市児童発達支援センター職員との意見交換を行う中で連携を深めていく必要があると感じる。

西口移転に伴い相談体制の再構築が必要になるかもしれないが、障害者の相談としての捉え方のみではなく、川越市全体の相談体制として捉える中で役割を見つけていく必要がある。

【こども部会】

医療的ケアに係る研修については今年度も実施予定であり、対象者や内容については検討していきたい。また、昨年度に実施した研修の受講者へのフォローアップも検討していきたい。

切れ目のない支援体制の整備については川島ひばりが丘特別支援学校の協力のもと、相談支援ファイルの活用方法や啓発を継続して推進していきたい。

(意見)

昨年度、市内の児童発達支援と放課後等デイサービス事業者の連絡協議会を立ち上げた。その関係で川越市児童発達支援センターの状況確認を行ったが、川越市児童発達支援センターにおける計画相談については、センター利用者で未就学の児童のみを対象とすることであった。

川越市児童発達支援センターにおける計画相談についても児童のプロジェクトで検討していきたい。

児童の計画作成については、相談支援専門員の絶対数が少ないという課題もあるが、成人の計画作成との視点の違いもある。児童の場合は親の視点や発達の視点も重要となり、その質と専門性が相談支援専門員に備わっていない状況もあるのではないかと考える。

【地域移行部会】

精神障害にも対応した包括ケアシステムの構築については障害者支援計画に則り、そのあり方等について関係課と連携を図っていきたいと考えている。

病院からの退院先としてグループホームなどの居住の場の検討については、部会の中で「何が出来るのか」を精査していく中で進めてきたい。

病院からの退院後における地域への定着についても、研修の実施などを含めて検討していきたい。

(意見)

地域定着に係る部分として、退院後、対象者の生活が落ち着いてきたときに、見守りを含む支援体制に委託相談として関わっていけるのかどうか、その体制をどのように検討していくかについては整理が必要となる。

地域定着の課題については地域移行部会又はまちづくり部会に関わる内容であるが、現場が混乱することのないよう、また、協議が重複しないよう整理が必要となる。

川越市は多くの相談機関が設立されてきたことで、その機関がどこまで支援を行うのかという役割分担が曖昧になってきているため全体的な整理が必要と考える。

(4) その他

特になし

5 報告事項

(1) 平成30年度川越市障害者相談支援センター活動状況報告

川越市障害者相談支援センターの相談員より資料5に基づき説明を行う。

(意見)

基幹相談支援センターとして3名増員されたにも関わらず、委託の業務軽減が図られていないことには疑問が残る。

基幹相談支援センターは一時的な窓口としての相談受付は行っておらず、委託相談から抽出された虐待ケースなどの個別ケースの対応を図っていると

ころである。そのため、11名の委託相談員にプラスして3名の相談員が増えたということではない。相談の件数の増加については計画相談へ移行できないケースやより複雑な困難ケースの増加によるものと考えられる。

基幹相談支援センターを含めて川越市全体の相談体制の展望をきちんと見据えていく必要がある。

- (2) 平成30年度川越市障害者虐待防止センター活動状況報告
事務局より資料6に基づき説明を行う。

6 閉会

閉会后、各部会に分かれ副部会長の選出及び第1回の部会の日程を調整し、次のとおりとなる。会場については調整とする。

部会名	部会長	副部会長	第1回部会日程
仕事活動部会	金澤 昌敏 委員	塚田 徹 委員	7月16日10時
まちづくり部会	菊本 圭一 委員	中村 義孝 委員	7月26日15時
こども部会	水野 努 委員	柳沢 真理子 委員	7月 5日15時
地域移行部会	斎藤 秀一 委員	齋藤 敏靖 委員	7月12日15時

以上